



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島司教区  
電話099 (226) 5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



年頭の言葉

お隣・ご近所宣教へのチャレンジ

教区の現状を認識し、祈りの力で行動に移しましょう！

鹿児島教区長 司教 郡山健次郎

2018年

教区の皆さん、新年あけましておめでとうございませす。新しい年をどのように迎えたのでしょうか。こうして教区報で新年の挨拶をするのも12回目になりました。

異邦人の庭

昨年10月、東京潮見のカトリック会館で「新福音化の集い」がもたれ、各教区から二人の代表者が送られました。皆さんは、新福音化という耳慣れない言葉に戸惑うかもしれません、私はこの言葉を聞いた時、「聖ヨハネ・パウロ2世の「新しい福音宣教」という言葉を思い出しました。2010年の世界広報の

日のテーマは「司祭とデジタル世界における司牧、みことばに仕える新しいメディア」というものでした。

その中で、教皇は、「まだ神を知らずにいる人に、エルサレム神殿の『異邦人の庭』のような場を提供するものとして、ウェブを思い描くことはできないでしょうか」と述べておられます。

エルサレム神殿には、聖所を中心に、ユダヤ教徒だけが入ることのできる庭と誰もが自由に出入りできるいわゆる異邦人の庭があったそうです。復元図を見ると、それはかなり広大なもので、実際、今に残るエルサレム神殿の庭は大勢の観光客で賑わいアラブの人々も行き来しているのを見ることがあります。

私を持っています。

私は異邦人の庭

ところで、新しい福音宣教にしろ新福音化にしろ、私たちが一人ひとりが「動く異邦人の庭」という発想は大事かと思えます。「福音化」というと難しい感じがしますが、「私は動く異邦人の庭」とすると、文字通り動きが出てきます。フランススコ教皇は「出かける教会」を推奨しておられますが、私たちは、元気であれば、どこにでも自由に動かすことができます。私たち一人ひとりが教会とい

うわけですから、意識してもしなくても、私たちは「出かける教会をやっている」ことになり、問題は、そんな私たちが「異邦人の庭」のような誰をも排除しないみんなを自由に迎える空間を作っているかという点ではないかと思うようになります。反省と自戒を込めて言うのです、ただの気難しい老人をやっているなら老害をばらまいて自由往來の庭を台無しにしていることになるのだと気がついたのです。



私は、インターネットの世界を「異邦人の庭」とされたことに嬉しかったものです。ネットの宣教的価値については今も同じ思

い、自分にはがみつくなのでなく、何歳になっても若者たちの励みとなり、皆の賞賛を受けているあのスポーツ選手たちのようにレジエンド(伝説)を目指す「異邦人の庭」になりたいと思っています。

現実に直面して

そうは言っても、鹿児島教区の現状は信徒数減が続き低迷しています。昨年11月初め、那覇で開かれた長崎教会管区司教・事務局長会議のことは12月号の司教執務室便りで書きました。その時配布された各教区の1994年から2014年までの20年にわたる信徒数の増減一覧の資料を目にしたときの衝撃はいまだに

生々しく脳裏から離れませぬ。繰り返しますが、1994年の幼児洗礼は61人、成人洗礼は92人、20年後の2014年は幼児洗礼27人でほぼ半減、成人洗礼は34人でほぼ3分の1に激減していることに言葉を失いました。手元の統計を見ると2016年は幼児洗礼27人でまったく同数。成人洗礼は45人と11人増で少し上向きでしたが今年はどうなるのでしょうか。

を大事にするのは当然のことです。これも執務室便りで書いたことですが、「出かける教会」となるための第一歩がお隣・ご近所と仲良くすることであることは言うまでもありません。「お隣・ご近所に手作りのお漬物を分けてあげている」という話を聞いたのは何の集まりだったか、つい最近のことです。班会のある小教区なら、「私の宣教」と題してそんな体験の分かち合いも励みになるはずで、そうではなくても、ミサ後のお茶の時間にそんな分かち合いをぜひ持つてほしいと思います。

初めて唱える祈りです。私は、病気の人や問題に直面している人のために祈るときこの祈りを応用して次のように唱えます。「主よ、〇〇さんを顧み、急いで助けに来てください。」

私は皆さんの生活環境を知りません。つまり、どんなお隣さんがいて、どんなご近所付き合いをしているのか見当がつかせませんが、「愛は近くから遠くへ」の原則に従えば、一番身近なお隣・ご近所の皆さんのこと

お隣・ご近所宣教

「神よ、わたしを力づけ、急いで助けに来てください。」これは教会の祈りの時、

「主よ、感謝します、賛美します」の射撃と併用することを勧めます。是非試してください。こうして誰かのために耐えず祈っている、いろいろな気になることがあっても、穏やかな気持ちに満たされるようになるから不思議です。

宣教師は祈りとともになされるものであり、神さまと直接つながる祈りによって人ともつながることを忘れてはなりません。今年も御父からの豊かな祝福のもと身近な人々に愛の福音を届けることができよう心から祈ります。

射撃のすすめ

「神よ、わたしを力づけ、急いで助けに来てください。」これは教会の祈りの時、

「主よ、感謝します、賛美します」の射撃と併用することを勧めます。是非試してください。こうして誰かのために耐えず祈っている、いろいろな気になることがあっても、穏やかな気持ちに満たされるようになるから不思議です。

謹賀新年

鹿児島教区司教団

教区長 郡山健次郎

総代理 泉 浩二

〔本土地区〕

アン、朴昶奎(始良・溝辺教会)、ベルナルディーノ(指宿教会)、朴鎮亮(加世田教会)、朴鎮亮、坂本進(枕崎教会)、泉 浩二(鴨池教会)、竹山 昭、貴島丈弥(ザビエル教会)、頭島 光、ムイベルガ、ボスコ(谷山教会)、栃尾泰英(種子島教会)、小隈憲士(玉里教

〔敬称略〕

会)、鈴木康由(紫原教会)、鄭法鐘(吉野教会)、ステイブ(鹿屋教会)、丸野六雄(垂水教会)、サ

ンタマリア(国分教会)、寝占敦之(志布志教会)、牧山田一(阿久根教会)、萩原義幸(出水教会)、ハ

ンマ(入来教会)、アッシュヤー(大口教会)、メニツヒ(川内教会)

〔大島地区〕

内野洋平(大笠利教会)、松永正男、金照一(古仁屋教会)、ティエン、李秉徳(名瀬聖心教会・小宿教会)、タ

〔その他〕

末吉卓也(教区本部)、永山幸弘(司教館)、小川靖忠(YBU本部)、中野裕明(日本カトリック神学院)、山口好信(ラ・サール学園)、関根悦雄(純心鹿兒島修道院)、田邊 徹、田原 章、成相明人(引退)、浜崎真実(出向)

# 育ててくださったことにありがとうございます！

## 金祝の竹山 昭神父に感謝の言葉

### 生き方がブレない神父様

司祭団代表 小 隈 憲 士

竹山昭神父様、「金祝」心からお慶び申し上げます。

神父様の教区司祭としての50年間の歩みに思いを寄せ、同じ教区司祭の1人とあけて、感謝の言葉を述べたいと思います。

一つは今から25年前、1992年7月9日は神父様の銀祝でした。その年の夏、ザビエル祭で、評判の高い有名なペトロ・ネメシエギ神父様が講演をしてくださいました。そして、その後2週間にわたって10日間のネメシエギ神父様の集中講座がありました。



小隈神父から感謝の言葉が伝えられる

からは1年も欠かさず竹山神父様が集中講座をしてくださっていることは、皆さんがご存知の通りです。

さて、ネメシエギ神父様はユーモアを交え、とても分かりやすくお話ししてください、受講した誰もが深い感銘を受けました。

私もその1人で、講座の最後の日に個人的に神父様に感謝の言葉を述べ、そのとき、ここ鹿兒島では学ぶ機会がなかなかないことなど、いろいろ不満を語りました。そんな私に、眼鏡越しに、あの大きな丸い目で「こっくり」と鹿兒島には宝があります」と神父様はおっしゃいました。

初め「何のことやら」と思ったのですが、すぐに気づきました。「ああ、竹山神父様のことですね」と答えますと、満面の笑みで「そうです」とおっしゃいました。

た。その笑顔に包まれて、夏の暑さとは違う「熱い」ものを感じました。

竹山神父様を「鹿兒島教区の宝」と言われ、それはもう自分のことのようにとても嬉しく思いました。

ネメシエギ神父様のこのことを私なりに考

えてしまいました。それは「司祭は遣わされた場所で、しっかりと根を下ろし、生きてゆくものです。その生きた模範が身近にいらっしゃるのだから、迷わずあなたも歩んでゆきなさい」と神父様はおっしゃりたかったのだらうと思いましたが、当時、叙階4年5か月のまだ腰のすわらない私

### 常に見守ってくださった神父様

信徒代表 前之園 礼 央

おめでとうございます。信徒を代表してお祝いの言葉を述べさせていただきましたが、機会をいただきましたが、私にはそのような大任を果たす資格もありませんので、これまで竹山神父様にお世話になった多くの信者の1人として、神父様との思い出をお話しさせていただきますが、祝いの言葉とさせていただきます。

私が神父様に初めてお会いしたのは、少なくとも私がお会いしたと思うのは、今から35年前、私が鹿兒島に引越して来たときだと思えます。神父様は園長先生でした。今の私よりもお若かったのですが、そのときの神父様は今と変わらなず物静かで優しく穏やかなのですが、私たちの心を「何でもお見通し」というようなオーラがあったのを子どもながらに覚えています。今でもそのような気がしてとても緊張しています。

がようやく「教区司祭」になれました。その後、竹山神父様の司祭としての生きる姿を見ながら、私も今日まで1人の教区司祭として迷わず生きてこられました。この30年近くの間、神父様とのかわりなく、竹山神父様は決してブレない生き方をしているという事です。ですから、私もこうして今があります。

先日の教区司祭会で久しぶりにお聴きして嬉しく、温かい思いを感じました。そのこととは「そのように生きることを選んだのでしよう」ということです。「そのようにとは、福音を信じ、生きていくのだから、イエス・キリストに倣って生きること。イエスが選ばれた道をあなたも選んだのだから、イエスのまなざしで見つめ、イエスのご苦難を思い、試練を恐れず受けるために、腹をくくって生きていきたいじゃないですか。」

残っています。さらに大学の時は、私は教会学校のリーダーや青年会の活動をしていました。土曜日の晩に青年会の仲間と真剣に語り合った結果、少しお酒を飲み過ぎてしまいました。翌日、私は神父様が立てられたごミサの侍者でした。自分では気づかなかつたのですが、迫さんから「ちよつと臭うよ」と指摘いただきました。きつと神父様は静かに私を見守ってくださいましたのだと思います。

このように私は幼稚園から大学まで、神父様と出会わせていただき、ザビエル教会で育てていただきました。大学卒業後、私は教職に就き、鹿兒島市を離れ、県内をまわり、今年の4月に再び市内に戻ってきました。勤務校は母校でありながら、私には一番不似合いな学校だと感じ、自分に務まるのかと不安な心境でした。ザビエル教会に行き、神父様に鹿兒島に転勤になったこと、そして新しい勤務校を伝えるとき、神父様は私に「あなたなら大丈夫ですよ」と言ってくさいました。なぜ大丈夫なのか理由をおっしゃっています。

またその頃の神父様には額にコブができていた。私たちがそれを話を作りました。私にはそのような大任を果たす資格もありませんので、これまで竹山神父様にお世話になった多くの信者の1人として、神父様との思い出をお話しさせていただきますが、祝いの言葉とさせていただきます。

このように私は幼稚園から大学まで、神父様と出会わせていただき、ザビエル教会で育てていただきました。大学卒業後、私は教職に就き、鹿兒島市を離れ、県内をまわり、今年の4月に再び市内に戻ってきました。勤務校は母校でありながら、私には一番不似合いな学校だと感じ、自分に務まるのかと不安な心境でした。ザビエル教会に行き、神父様に鹿兒島に転勤になったこと、そして新しい勤務校を伝えるとき、神父様は私に「あなたなら大丈夫ですよ」と言ってくさいました。なぜ大丈夫なのか理由をおっしゃっています。

このように私は幼稚園から大学まで、神父様と出会わせていただき、ザビエル教会で育てていただきました。大学卒業後、私は教職に就き、鹿兒島市を離れ、県内をまわり、今年の4月に再び市内に戻ってきました。勤務校は母校でありながら、私には一番不似合いな学校だと感じ、自分に務まるのかと不安な心境でした。ザビエル教会に行き、神父様に鹿兒島に転勤になったこと、そして新しい勤務校を伝えるとき、神父様は私に「あなたなら大丈夫ですよ」と言ってくさいました。なぜ大丈夫なのか理由をおっしゃっています。

教区全体のこと、信者一人ひとりのことを考え祈ってくださった神父様、今日は特に、私たちが感謝の気持ちを神父様にお伝えし、神様にも神父様をいただいたことを感謝しお祈りする日です。50年間、18250日対して、ほんの今日1日だし、神父様のように常にお祈りできない私の感謝ですが、これまでありがとうございます。ありがとうございましたと思えます。竹山神父様、本当にありがとうございます。

不真面目な信者の私です。このように神父様に勇気づけられ、神様とのつながりを保つてこられたのだから、他の多くの教会に来られていての方々もきつと私以上に神父様に力づけられたり、神様のところへ立ち返らせていただけたことだと思います。

また私たちが神様との間をこれからはと祈ります。神様にたくさん出会うかせてください。次のお説教を聞かせていただきます。これからもよろしくお祈りします。

## 1月1日は世界平和の日

福者パウロ6世は1967年12月8日、ベトナム戦争が激化するなか、来る1月1日を平和の日とし、平和のために特別に祈りを捧げようと呼びかけました。それ以来、世界の平和を祈る日として、毎年1月1日を「世界平和の日」とし、戦争や分裂のない平和な世界が来るように祈っています。

平和はキリスト教そのものに深く根ざしています。キリスト者にとって平和を唱えることは、キリストを告げ知らせることにほかなりません。新年にあたり「信仰の原点に立ち戻り、すべての善いこと、平和を築くこと、世界を果敢と責任を持って変えていく」ことを決意し、祈りを捧げようと思えます。

# 教区主催で竹山神父金祝感謝ミサ

## キリスト者の生き方を示し続けた50年

12月3日(日)教区主催の「竹山昭神父金祝感謝ミサ」が鹿児島カテドラル・ザビエル記念聖堂でささげられた。午後2時から始められたミサには、各地から250人余りの信者が参列し、永年、教区信者の信仰の基礎作りのために働き続けた竹山神父に心からの感謝が伝えられた。



笑顔で花束を受け取る竹山神父

「ミサは、鹿児島教区に竹山神父を与えてくださったことに感謝を込めて、」と感謝を述べた。

この日参加して下さった壮年会のメンバーは、ザビエル教会所属の会長と

花束贈呈もあつた。その後、挨拶した竹山神父は、恩師ネメシエギ神父を回想し、「彼はキリスト教を希望の宗教と受け取っていたが、日本人の私には無理。日本では人間の暗い影からでなければ、福音を説くことはできないと感じた。恩師のように自分なりに福音を説いてきたつもり。司祭はそれぞれ違った環境で育ち、異なったタレントを

持っているから、司祭団としてチームでなければならぬ。司教を助けるために互いに補い合いながら、信者の方を見るのが大切だ」とメッセージを送った。その上で、「体の弱かった自分には多くの人に心配をかけ、その分、支えてもらった。だから50年間、ありがとうと言いたい」と感謝の言葉を述べた。その後は、教会ホールで祝賀会があつた。

1日(月) 神の母マリア  
 4日(木) 七田八十吉神父命日(1980年)  
 7日(日) 主の公現  
 8日(月) 主の洗礼  
 9日(火) 教区司祭会・教区本部・16時  
 10日(水) 市内主任司祭会・教区本部・15時  
 14日(日) 年間第2主日  
 ▼永島泰蔵神父命日(2002年)  
 16日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時  
 18日(木) キリスト教一致祈禱集会・25日まで  
 「すべての人を一つにしてください」という最後の晩さんでのイエスの祈りに耳を傾けるわたしたちはまた、折にふれて目に見える一致を示すように求められています。それは、ともに祈り、支え合うことによって、神がすべての人の救いのためにイエスを遣わしたことを「世が信じるため」です(ヨハネ17・21〜23参照)。キリスト教諸教会の間で毎年1月18日から25日に定められている一致祈禱週間、このことを強く意識する機会となるでしょう。この一致祈禱週間のために、教皇庁キリスト教一致推進評議会と世界教会協議会は1968年以来、毎年テーマを決め、「礼拝式文」と「8日間のための聖書と祈り」を作成しています。日本ではカトリック中央協議会と日本キリスト教協議会が共同で翻訳し、小冊子を発行しています。

竹山昭神父(ザビエル教会主任司祭)が司祭に叙階されたのは1967年7月9日のこと。ザビエル教会では、すでに小教区主催で神父の金祝を昨年夏(2017年7月9日)に祝っていた。

教区では、竹山神父と同じ年に叙階された成相明人神父(1967年3月19日叙階・引退・東京在住)と合わせて、司祭叙階50年の記念式典を予定していたが、成相神父の出席が叶わなかったため12月3日は、竹山神父の金祝ミサとしてささげられた。

11月19日(日)志布志教会の聖堂の屋根の上に、連合壮年会のメンバーが上つてベルタワーの改修工事をしてくださいました。



志布志教会の存在は、多くの小教区が抱えている課題の解決のために、大きな希望を与えるものだと思えました。神様から頂いた一人ひとりのタレントを持ち寄って、協力して貢献できることは素晴らしい恵みです。今後は私たちが協力させていたいただきたいと思えます。(志布志教会レポーター・芝原慶次)

森さん、玉里教会の崎山さんと本田さん、谷山教会の岩崎さんと増田さん兄弟とその奥様、鴨池教会の田畑さん、それに担当司祭のアン神父と今回の発起人となつてくださった紫原教会の徳永さんでした。

## 志布志教会で大活躍

### 鹿児島カトリック連合壮年会

## 短信

▼シドゥツチ祭 11月23日(木)午後、宣教のため屋久島に上陸(1708年)し捕らえられ、キリシタン屋敷に幽閉されて死亡したシドゥツチ神父の遺徳を偲ぶ「シドゥツチ屋久島上陸記念祭」が屋久島町小島の上陸記念碑前広場などであり、マリオ・カンドウイチ神父の講演があつたほか郡山司教司式の記念ミサがささげられた。

▼第57回市民クリスマス 12月10日(日)ザビエル教会で市民クリスマスがあり、写真家の桃井和馬さんの講演やハーブとフルートの演奏があつた。

## 会と催し 1月

- 1日(月) 神の母マリア
- 4日(木) 七田八十吉神父命日(1980年)
- 7日(日) 主の公現
- 8日(月) 主の洗礼
- 9日(火) 教区司祭会・教区本部・16時
- 10日(水) 市内主任司祭会・教区本部・15時
- 14日(日) 年間第2主日
- ▼永島泰蔵神父命日(2002年)
- 16日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時
- 18日(木) キリスト教一致祈禱集会・25日まで

- 25日(木) 聖パウロの回心
- ▼郡山健次郎司教霊名
- 26日(金) フェリエ神父命日(1919年)
- 27日(土) パラスバス神父叙階記念(1990年)
- ▼パラスバス神父霊名(聖ステイブ)
- 28日(日) 年間第4主日
- ▼オリーブの会・教区本部・14時
- ▼世界子ども助け合いの日(献金)

「カトリック児童福祉の日」は、子どもたちが使徒職に目覚め、思いやりのある人間に成長することを願って制定されました。この日は第一に、子どもたちが自分たちの幸せだけでなく世界中の子どもたちの幸せを願ひ、そのために祈り、犠牲や献金をささげます。毎日のおやつや買ったものなどを我慢してためた子どもたち自身のお小遣いの中から献金することが勧められています。日本では、各教会だけでなく、カトリック系の幼稚園や保育園の大勢の子どもたちがこの日の献金に協力しています。この日の献金は全世界からローマ教皇庁に送られ、世界各地の恵まれない子どもたちのために使われます。

祈りの意向  
 世界の使徒会  
 世界共通 アジアでの少数派の宗教  
 日本の教会 諸宗教の貢献

# 主任司祭の故郷・濟州島巡礼を終えて

吉野教会 小河原恵美子

吉野教会(チョン神父主任司祭)では、2017年秋に、チョン神父の出身地・濟州島巡礼を計画、3人が参加した。教区報では参加者の一人、小河原恵美子さんの感想を紹介したい。

チョン神父様が高校2年生の時、ハ・アントニオ神父様(韓国で宣教のドイツ人司祭)のテレビを通して話される言葉に感銘を受け、すぐさまアントニオ神父様に手紙を書き送りました。長じて司祭になったチョン神父様にとってアントニオ神父様の影響はとても大きかったといえます。出会いから30年、いつも慰め励まし支えてくださった恩人の神父様(韓国ではこのような時「お父さん神父様」とお呼びするそうです)が、巡礼予定の3日前(10月13日)に亡くなられ、チョン神父様は急ぎ釜山へ向かいました。16日、告別式ミサを終えたチョン



巡礼先でチョン神父様と一緒に

2日目の夜、神父様出身の東門(トナム)教会のミサに与りました。夜7時からロザリオの祈り、7時30分からのミサには吉野教会の主任のミサ参加者の3倍ほどの人々があふっていました。なかでも子供たちの姿が多かったことに驚きました。ミサ後は7、8人の小学生が初聖体の準備を、同じく大人

神父様は一息入れる暇もなく、私たち一行(福満、長井、小河原)を釜山空港で出迎えてくださいました。「韓国のハワイ」と呼ばれ、豊かな自然に囲まれた火山の島である濟州(チェジュ)島は、韓国の最高峰である漢拏山(ハルラ山)や溶岩洞窟など世界自然遺産に登録されている観光地も多い。15世紀初め頃までは独立した王国であったので、本土と異なる独自の文化があるという。かつて琉球王国だった沖縄と似ているように思った。見どころ満載の濟州(チェジュ)島だが、何といても信仰あふれる教会の姿は一番印象的だった。

韓国の人々の信仰の深さ熱心さ、信仰の土壌の違いを垣間見た思いでした。私たちが到着した夜と帰る日の前夜、神父様のご兄弟(お姉様と2組のお兄様夫妻)が夕食会を開いてくださいました。日本語の堪能な兄嫁さんの通訳のおかげで会話も弾み、親しく交えながら団らんの時を得ました。韓国のこのような人々の中で支えられている神父様が私たちの教会に派遣されていらつしやる。言葉や文化の違い、考え方の違いはあれどもお互いに理解し合い、チョン神父様を中心に吉野教会の共同体が一致し、祈りのある教会となるようにとの想いをあらたにしました。巡礼中はチョン神父様か

## KJP (鹿兒島正義と平和協議会) 通信 1月号

### 社会の福音化

「鹿兒島カトリック正義と平和協議会」が発足して、今年で3年になる。「教区報の記事を読んでいきます」「脱原発に取り組みをかけるのですね」などと声をかけられることがある。ゆつくりとした歩みではあるが、やってきて良かったと思う。

「今こそ原発の廃止を」という司教団メッセージを市民団体のリーダーに紹介したところ、内容に共感を示された。教会の中に留まるのではなく、外に向かうことが必要であると感じている。これからも原発・沖縄・憲法の問題に、福音の視点で祈り、学び、行動していくつもりだ。他方で、「正平協」にい

らたくさんの親切や思いやりをいただき、恵み溢れる巡礼が出来たことを神様に感謝いたします。

も福音(キリストによる解放と神の国の実現)を現実化させるため、神から与えられたいのちと人格を守るために、社会の福音化が必要であり、そのために行動している。30年前のNICIEのときに、「教会の使命は、霊魂の救いか社会活動か」という疑問が出されたことがあり、これに対してある司教は、「神が人間に与えられた本性は、他者と切り離された自己の救い、あるいは世界と切り離された個人の霊魂の救い、という考え方と対立するのです。」と答

えた。他者との交わりや現実のかかわりによって、キリストによる救いは実現するのであると理解している。日本カトリック司教団はNICIE1の答申を受けて「ともに喜びをもって生きよう」というメッセージを出した。(1987年)これは社会の福音化にカトリック教会が取り組もうという強い決意であった。「現代の社会で、人々の苦しみを、個人としても、共同体としても敏感に受けとめ、それらの根源となつてい

### 編集後記

新しい年がスタートしました。この1年が皆さんにとって穏やかで充実した時となりますよう心からお祈りいたします。新年号では紙面の都合で連載「僕の長崎への道」(諏訪勝郎神学生)は、お休みさせていただきます。ご了承ください。

### 文芸

#### 短歌

鹿兒島純心 川上 和

初の日や神の御母世の人に希望のしるべ馬屋の御子を  
両陛下島々めぐり愛おしむ沖永良部百合島  
民言祝ぐ

鴨池教会 前田 儀子  
しだれ桜ゆたにしだるる川べりに原爆ド



定例会の案内 (毎月第三土曜日) 日時・1月20日(土) 13時~15時 場所・教区本部 (紫原教会 山下和実)